

## 厚労相、介護現場の書類半減に意欲

介護の現場のペーパーワークを半分に減らすという国の構想。塩崎恭久厚生労働相がその実現に向けた意欲を改めて示す一幕があった。

14日の衆議院・厚生労働委員会。民進党の初鹿明博議員から、「事務の量が非常に多く、本来のサービス以外のところに手間がかかっている。残しておかなければいけない書類も多すぎる」との指摘を受け、「全く賛成」と答弁した。そのうえで、「働いている人たちの過剰な負担をできる限り減らすということが、介護の仕事の魅力を高める大きなファクターだと思う。しっかりやっていきたい」と語った。紙から電子データへの置き換えを進めたり、報告事項の無駄や重複を排除したりすることによって、「文書量を全体として半分にする」という。

政府は昨年末にまとめた「経済・財政再生計画（2016改定版）」に、2020年度にも書類の半減を達成する目標を書き込んでいる。厚労省はモデル事業を展開中だ。実態の把握や課題の洗い出しを図り、有効な施策の立案につなげたいとしている。

## 日本初の盲ろう者グループホームが大阪に誕生

視覚と聴覚の両方に障害のある盲ろう者が暮らす障害者グループホーム「ミッキーハウス」が3月1日、大阪市内にオープンした。運営するNPO法人視聴覚二重障害者福祉センターすまいる（門川紳一郎理事長）にとって

は1999年の発足以来の悲願だ。石塚由美子事務局長は「盲ろう者に特化したグループホーム（GH）は日本初と言われている」と話す。

GHは5階建てで2階から4階に10人が入居できる。部屋はすべて個室で家賃は光熱水費、管理費込みで月6万5000円

（一部7万5000円）。食事は別途実費が必要だが希望すれば一日3食提供される。40～60代の5人が入居した。

「盲ろう者は親と一緒に住んでも思うようにコミュニケーションを取ることができませんが、同じ障害を持つ仲間となら気兼ねせず暮らせるのでは」と石塚さん。総工費1億4000万円を用意するため、盲ろう者が先頭に立って募金活動を続けてきたという。

盲ろう者向けGHの特徴として手話などのできる職員を配置したほか、居室に点字や浮き出し文字を取り付けた。床には誘導ブロックも設けた。盲ろう者に振動、音、光などで通報するシステムも各部屋に配備した。GHに入居する盲ろう者の中には、日中は徒歩2分で通える同法人の就労継続B型事業所に通い、和太鼓やダンスのクラブ活動も行っている。

岐阜県福祉のまちづくり推進協議会

担当：小澤

お問合せは  
コチラまで

〒501-3246 関市緑ヶ丘2-5-78

TEL: 0120-337-301 FAX: 0575-24-5733

<http://www.nodakensetsu.co.jp/>

mail: [ozawa@nodakensetsu.co.jp](mailto:ozawa@nodakensetsu.co.jp)

案内  
不要